

桧 枝 岐 小 学 校

1、地層の観察

(1) 観察する場所

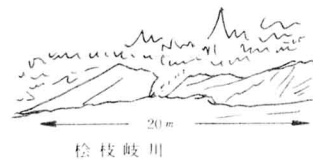
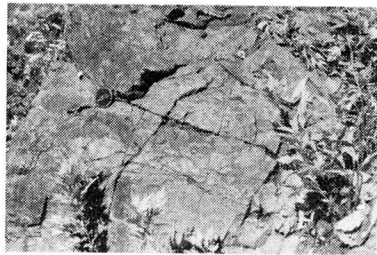
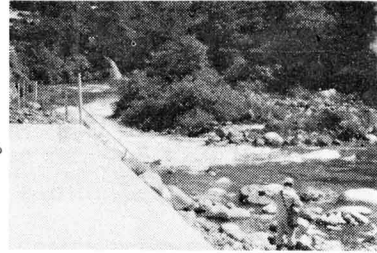
児童館わきのプール下の川原で観察する。

(2) 露頭（岩石や地層が地表に露出している所をいう）からはなれて、露頭全体が見通せる所で地層を観察する。

桧枝岐一帯は、教科書に見られるような淡黄色や緑色や赤っぽい、砂やレキ、粘土層のような模式的な地層は見られない、この周辺は暗青灰色の硬い古生層と、白っぽい花こう岩類が広く分布している。

① 川原から、川岸の露頭をスケッチする。

斜めに、層理のような面が観察されますから、書き入れておこう、また、露頭の大きさもおよそどれくらいかを書き入れる。



ここで、一見層理のように観察された面は、層と層のさかい目の面でなく、この地層が堆積した後の地かく変動で、一定方向に地層に割れ目ができて、生じたもので、節理と呼ばれている面です。

(3) 地層に近づいて観察させる。

① 地層にさわってみよう。川原の砂や畑の土と別の感触を受けます。表面は暗青灰色でち密で硬く、児童には、これが海底につもってできた地層とは考えられないでしょう。

② 表面をよく注意して見ると、節理とは別に、黒っぽい地はだにやや白っぽいしま模様が観察されます。このしま模様が層と層の境です。黒っぽい所は粘土が長い年月を経てできた粘土層で、白っぽい所は砂が長い年月を経て固